

冬夏言

2019・5・16

小学生の頃、よい歯のコンクールに出場した。自分の歯が評価され、子ども心にとっても誇らしかったことを覚えている。そしてその1年後、虫歯が6本あると診

断された。慢心で歯磨きを怠った結果を、身をもって思い知った▼口腔ケアの重要性が叫ばれるようになったのは東日本大震災の頃から。十分に歯磨きができず、肺炎にかかって被災者が亡くなった事例があったという▼さらには、口腔環境は全身の健康に大きな影響を及ぼすとされ、歯周病と糖尿病・肥満・動脈硬化との相関関係も指摘されている▼口腔ケアの視点から健康教育の確立を目指そうと、弘前大学COIと黒石市などは今年度から、歯列と生活習慣の関係性調査に乗り出した。黒石市内小学4～6年生を対象に歯並びの他、生活習慣や口周りの癖、立ち姿勢などの情報を3年かけて収集し、関係性を明らかにしようとするものだ▼歯列と生活習慣を組み合わせた調査は、関係者によると全国初とみられ、世界的にも珍しいという。本県発の調査が全国、ひいては世界の健康に寄与するかもしれないと思うと、今から結果が待ち遠しい。